

「日本紅斑熱」届出 増加について

例年、春から秋にかけて人々の野外活動が活発になることに伴い、ダニ媒介感染症（日本紅斑熱や SFTS など）の届出数が増加します。今年は、日本紅斑熱 9 件、SFTS 3 件の計 12 件の届出があり、昨年度の発生数を上回っています。患者のほとんどは市外在住者ですが、日本紅斑熱 9 件のうち 3 件については、いずれも和歌山市内北西部での活動に起因する感染が疑われています。

つきましては、臨床上、ダニ媒介感染症が疑われる患者を診断した場合は、行政検査体制を整備していますので、検体の確保をお願いします。

＜行政検査で確保していただきたい検体＞

① 刺し口 痂皮（滅菌スピッツ） ② 血液（EDTA 加血 2cc 程度）

【2025 年 日本紅斑熱発生届について】

症例		1	2	3	4	5	6	7	8	9
年齢		92	88	72	71	58	64	85	56	60
性別		女	女	男	女	女	女	男	女	女
届出日		5/13	6/3	8/1	9/16	9/19	9/29	9/30	10/15	10/21
発症日		5/4	5/29	7/25	9/9	9/11	9/22	9/25	10/5	10/13
症 状		発熱 発疹 肝機能異常 D I C	発熱 刺し口 発疹 肝機能異常	発熱 発疹 肝機能異常	発熱 刺し口 発疹 肝機能異常	発熱 刺し口 発疹 肝機能異常	発熱 刺し口 発疹 肝機能異常 頭痛	発熱 刺し口 発疹 肝機能異常	発熱 発疹 肝機能異常	発熱 刺し口 発疹 肝機能異常
診断方法 (PCR)	血液	(+)	(+)	(+)	(－)	(+)	(－)	(－)	(+)	(－)
	痂皮	なし	(+)	なし	(+)	(+)	(+)	(+)	なし	(+)
咬傷部位 (刺し口)		不明	下腿	不明	乳房	腹部	鼠径部	膝窩	不明	腓腹部
感染推定地域		市外	市外	市内北西部	市内北西部	市外	市外	市外	市内北西部	市外

【過去5年間の推移】

年間届出数	日本紅斑熱	SFTS	つつが虫病
2025 (43W まで)	9	3	—
2024	9	1	—
2023	8	1	—
2022	6	3	1
2021	9	4	—

明らかに刺し口を呈さない症例（3 例／9 例）もありますが、血液に比べ、痂皮の検出率が高い傾向（6 例／6 例）です。つきましては、痂皮・血液の検体確保をお願いします。